

ロタウイルス感染症予防接種通知

川口市保健所 地域保健センター 令和2年9月25日

この予防接種は、ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防するためのものです。

市の委託した予防接種実施医療機関（裏面記載）にご予約の上、お子さまの体調のよいときに接種を受けましょう。

令和2年10月1日より、ロタウイルス感染症予防接種が定期接種になります。

◎対象者 令和2年8月1日以後に生まれた、出生6週0日後から32週0日後（ワクチンの種類により出生24週0日後）までのかた

◎接種料金 無料（令和2年9月30日までに接種をした場合は全額自己負担となり、10月1日以降、未接種分を定期接種として受けることになります。）

◎持ち物 母子健康手帳、予診票、保険証等の住所及び生年月日が確認できるもの

◎実施場所 市の委託した裏面の医療機関
※ 電話等で必ず予約をしてから接種してください。

- ※ 川口市外（埼玉県内）で接種を希望される場合は、埼玉県医師会ホームページの「住所地外定期予防接種相互乗入」の「一般」で該当する医療機関をご確認いただき、予診票を持参の上、接種してください。また、埼玉県外で接種を希望される場合は地域保健センターまでご連絡ください。
- ※ 川口市から転出した場合は転出先の自治体で接種を受けるようにしてください。転出後に川口市の予診票を使って接種をすると費用負担が生じる可能性があります。

【ロタウイルス胃腸炎とは】

口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

【ワクチンについて】

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、飲むワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。2種類とも、予防効果や安全性は同等ですが、接種回数が異なりますので、他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して選択します。

なお、途中からワクチンの種類を変更することはできませんので、2回目以降接種する時には、接種したワクチンの種類を事前に確認したうえで予約をしてください。

多くのワクチンの接種が重なる期間ですので、他のワクチン接種の時期に合わせて同時に接種すること（同時接種）について、医師に相談してください。初回は、生後2か月から出生14週6日後※までに接種します。出生15週0日後以降の初回接種はおすすめしません。

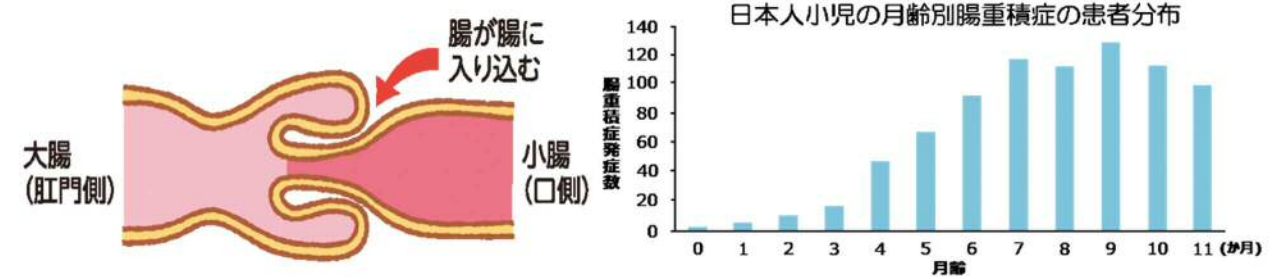
なお、このワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。

※ 出生14週6日後は、生まれた曜日から15週目の同じ曜日の前日です。

ワクチン名	ロタリックス(1 価)	ロタテック(5 価)
接種可能期間	出生6週0日後から24週0日後	出生6週0日後から32週0日後
	※どちらのワクチンも、標準的に生後2か月から出生14週6日後までに初回接種をします。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

【腸重積症について】

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉塞状態になることです（下図）。ワクチン接種後1週間程度、腸重積の発症が、わずかですが上がる可能性が知られています。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こることがある病気なので、ワクチンを接種しなくても注意が必要です。もともと、4～5か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなる病気（下のグラフ）ですので、早めにワクチンを接種完了しましょう。



腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、すぐに治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が見られた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

他の医療機関を受診する場合は、必ずこのワクチンを接種したことを医師などに伝えてください。

【腸重積症以外の副反応について】

ロタリックス：易刺激性、発熱、下痢、食欲不振、嘔吐、血便排泄、鼓腸、腹痛、胃腸炎等
ロタテック：下痢、嘔吐、便秘、発熱、中耳炎、胃腸炎、鼻咽頭炎、ラクトース不耐症等
※ いずれも一過性で、重篤なものはまれです。

【ワクチンを接種する前に】

赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをおすすめします。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

【接種できない場合】

明らかに発熱（通常37.5℃以上）している人や、重度の急性疾患にかかっている人、過去に同じワクチンで強いアレルギー反応が出た人は、接種することができません。また、未治療の先天的な消化管障害のある人や、過去に腸重積症をおこした人、重症複合型免疫不全（SCID）のある人も、接種できません。このほかにも、接種を中止したり、延期したりしたほうがよい場合もありますので、予防接種を受ける日には、あらかじめ予診票を記載して受診し、医師と相談してください。